様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５２８４０７８

研究課題名（和文）危機言語のデータ・アーカイブ作成のための試み―韓国語済州方言を中心に

研究課題名（英文）An attempt to construct data archive for endangered languages: A special focus on the Jeju dialect of the Korean language

研究代表者
千田　俊太郎（Tida, Syuntaro）

京都大学・文学研究科・准教授

研究者番号：９０４６４２１３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,200,000円

研究成果の概要（和文）：デジタル博物館のドメインとして kikigengo.jp を取り、それぞれの記述對象言語の展示スペースを設置、多言語化した。博物館の内容となる調査と記述を行い、多言語分類語彙集など、展示物の入力を行った。民族誌に関わる資料の写真撮影も行い、民族誌記述と合わせて博物館で公開した。済州方言、シンブー諸語、琉球列島の言語と文化などに関する成果をあげ、論文、著作、口頭発表などの形で発表した。

研究成果の概要（英文）：With the domain name kikigengo.jp registered for the digital museum, we first established the exhibition spaces for each language to be described to make the museum multilingual. The contents of the museum consist of descriptions based on our research. Exhibits such as multilingual classified vocabulary were made public. Ethnographic photos were also included in ethnographical essays at the museum. Findings about the Jeju dialect of Korean, Simbu languages, Ryukyuan languages and cultures were also published as academic papers, book chapters and scholarly presentations.

研究分野：朝鮮語、パプア諸語、記述言語学

キーワード：危機言語　朝鮮語　韓国語　済州方言　電子博物館　対訳語彙集

１．研究開始当初の背景

危機言語の研究において総合的な言語の記録・保存が注目を浴びている。しかし、少数言語・危機言語の調査研究に携わる研究者が記述研究の論文発表以上のデータ公開をする環境が整備された状況にあるとは言えない。言語テキストや文法体系の記述、さらにはすでに存在する様々な映像・音声データは、話者を含む一般に広く利用されるべきである。研究開始当初すでに、宮古語展示を目的として始まった電子博物館は公開直前であった。この仕組を多言語化し、また高度化・高機能化をすることを目指すことにした。

２．研究の目的

本研究課題では琉球諸語電子博物館として始まった言語データのアーカイブ・システムを、韓国語=朝鮮語(以下では朝鮮語)済州方言を中心とする他言語に応用させながら発展させ、データ・アーカイブの環境を整備する。そのことで 1)それぞれの言語記述自体を進展させ、2)貴重な資料を研究者同士のみならず社会と共有すること、さらには 3)話者への成果還元と 4)危機言語の保存と活性化に資することを目的とする。

３．研究の方法

言語記述班は現地調査による言語研究を行い電子博物館に展示する資料(コンテンツ)を収集、分析、作成する。

システム構築版は電子博物館の活用・維持・管理のためのデザイン、ならびに技術基盤を構築する。まず既存の宮古語デジタル博物館のシステムを把握し、多言語化にあたっての問題点を洗い出し、多言語化のための改修を行なう。

４．研究成果

技術的な側面については、初年度にデジタル博物館のドメインとして kikigengo.jp を取り、宮古島西原地区のページの公開を始めた。デジタル博物館の公開は新聞でも報道された。既存のデジタル博物館の多言語化のための改修を行ない、言語ごとに公開と限定公開の区別を設けるなど、個別に管理できるような態勢を整えた。新たに宮古語の方言の切り分けを行い、他の琉球諸語、朝鮮語済州方言、パプアニューギニアのドム語の展示スペースを設置した。2014 年度、システム面では大きな移行作業を行なった。第一に動画配信システムとして Kaltura を使用することにし、新たなサーバを導入した。第二に、WordPress によっておこなってきたページ群の記述を Dokuwiki によるものに移行した。この二つの変更により、音声・映像資料の倉庫と展示室を切り分ける仕組みの根幹ができ、また柔軟なデザインの開発をする環境を得た。ハワイの学会で共著(システム班のメンバー全員を含む)の発表を行なった。大幅な変更のあとは微調整を続けた。動画・音声に対する多言語字幕の機能を導入した。

記述班は初年度より博物館の内容となる調査と記述を行った。宮古島のページ群は手入れを行い公開した。新設されたスペースについては、朝鮮語済州方言のページ群と、パプアニューギニアのドム語のページ群の雛形を作った上で、入力を行った。多言語(日本語、朝鮮語、英語、エスペラント)対訳語彙集のデータを作り、相互にリンク付されたページ群を生成するシステムを作った。現在公開中の辞書順語彙リスト、意味分類索引、分類語彙リスト、語彙別連想リストがそれにあたる。済州島の済州民俗自然史博物館で許可を得て、民族誌に関わる資料の写真撮影も行なった。民族誌記述と合わせて博物館で公開した。

韓国から二人の専門家を招聘して二日にわたる国際講演会(使用言語は一日目は朝鮮語、二日目は英語)を開催し、学内外の専門家と意見を交換した。一人は韓国の言語アーカイブのプロジェクトを主導したコ・ドンホ教授(全北大)で、アーカイブやフィールドワークの技術的な側面と、済州方言音韻論の体系記述に関する研究についてお話しいただいた。もう一人はキム・ジホン教授(慶尚大)で済州方言の形態論について二度にわたって講演いただいた。二日目は言語記述研究会と共同開催の形を取った。その他、済州方言の語末形式、日韓のモダリティ、シンブー諸語のトーン、琉球列島の言語と文化などに関する成果をあげ、論文、著作、口頭発表などの形で発表した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 13 件）

1. 金善美、Hankwuke wa Ilpone uy cowukyey kamthansa wa motallithi ey kwanhaye (原文韓国語: 韓国語と日本語の遭遇系感嘆詞とモダリティに関して)、韓国学研究論文集(中国文化大学華岡出版部、台湾)、査読あり、2, 2013, 21--33
2. 鄭聖汝、Ceycwu pangen uy `-nta' wa kwanlyen emalhyengsik uy taylip ey tayhaye (原文韓国語: 済州方言の-nta と関連語末形式の対立について) Pangenhak(方言学)、Hankwuk Pangen Hakhoy(韓国方言学会)、査読あり、17、2013、105—141
3. 井川寿子、鄭聖汝、中国語における消失を表す存現文について、漢日語言対比研究論叢(中日言語対照研究論叢)、査読あり、4、2013、73--86
4. 金善美、現代韓国語と日本語の反語法文を成立させる語用論的条件について、朝鮮学報、査読あり、233、2014、(1)--(25)

5. Masayoshi Shibatani, Sung Yeo Chung and Bayaerduleng, Genitive Modifiers: Ga/no Conversion Revisited, Japanese/Korean Linguistics , 査読あり, 22, 2014, 355--394
6. 千田俊太郎、書評論文: ニコラス・エヴァンズ『危機言語』(大西正幸、長田俊樹、森若葉譯) -- 韓國版との比較 --、ありあけ　熊本大学言語学論集、査読なし、14、2015、37--80
7. 金善美、韓国語済州方言の自然発話の書き起こしテキスト－昔の食べ物－、ありあけ　熊本大学言語学論集、査読なし、14、2015、81--105
8. 鄭聖汝、使役構文の形成と結合価再考－－日本語と韓国語の証拠から－－、大阪大学大学院文学研究科紀要、査読なし、55、2015、139--173
9. Yuko Yoshinari, Prashant Pardeshi and Sung-Yeo Chung, Usage of Transitive Verbs in the Depiction of Accidental Events in Japanese and Korean, Japanese/Korean Lingustics , 査読あり, 21, 2015, 231--245
10. 千田俊太郎、東シンブー諸語の所有者人稱接尾辭についてありあけ、査読なし、15、2016、1--40
11. 金善美、韓国語の「-keyss-」と「-ul kesi-」の出現を決定する情報の登録領域について－直示性の観点から－、ありあけ、査読なし、15、41--58、2016
12. 千田俊太郎、ウェブと語彙集: 朝鮮語濟州方言語彙研究の課題と展望、ありあけ、査読なし、16、35--46、2017
13. 田窪行則、琉球諸語研究の現在--消滅危機言語と向かい合う、異文化コミュニケーション論集、査読なし、15、7--17、2017

〔学会発表〕(計 19 件)

1. 千田俊太郎、ニューギニアのトーン再考: シンブー諸語と語聲調を中心に、日本音声学会第 327 回研究例会シンポジウム「語声調の音声的実現における異音的変異としての声調変位」、国立国語研究所、2013 (20130622-20130622)
2. 金善美, Hankwuke wa Ilpone uy kamthansa wa motallithi ey kwanhaye (原文韓国語: 韓国語と日本語の感嘆詞とモダリティに関して), 第２回西太平洋韓国語教育/ 韓国学国際学術会議(主催：韓国学中央研究院(韓国)・中国文化大学(台湾))、中国文化大学(台湾)、2013 (20130624-20130624)
3. Takubo, Yukinori, Demonstratives in Japanese, Seminar at City University of Hong Kong, City University of Hong Kong, 2014 (20140324-20140324)
4. 田窪行則、危機方言、危機言語の記録、維持の方法としてのデジタル博物館作成の試み、第 7 回継承言語シンポジウム、沖縄キリスト教学院大学(沖縄県中頭郡)、2015、2015-03-07、招待講演
5. Takubo, Y, T. Motoki, S. Tida, S. Kajita, M. Yamada, Y. Asao and K. Yagi, Constructing a digital museum with a large-scale archive for endangered languages, 4th International Conference on Language Documentation and Conservation, Honolulu, Hawaii, USA, 2015 (2015-02-25 - 2015-03-01)
6. 梶田 将司, 元木 環, 森村 吉貴, 竹村 治雄、オープンソースビデオプラット フォームの試験実装を通じた全国共同利用クラウドサービスの検討、情報処理学会第 15 回教育学習支援情報システム(CLE)研究発表会、東京学芸大学(東京都小金井市)、2015 (2015-01-31)
7. Takubo, Yukinori, The Digital Museum Project for the Languages and Cultures of Ryukyu: The Case of Ikema Ryukyuan, The 16th Korea-Japan Workshop on Linguistics and Language Processing Kyung Hee University, Kyung Hee University, South Korea, 2014 (2014-05-10), 招待講演
8. 田窪行則、宮古方言の形態音韻論-動詞形態論を中心に、関西言語学会第 40 回大会、神戸大学、2015 (2015-06-14)
9. 田窪行則, Issues in the verbal morphophonemics of Ikema Ryukyuan, Phonology Forum, Osaka University , 2015 (2015-08-19), 招待講演
10. 鄭聖汝、日本語の「消失文」における属格の場所名詞句の性質についてー中国語との比較を通してー、第 4 回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム、延辺大学、2015 (2015-08-19)
11. 千田俊太郎、Dom 語記述研究 wa 言語類型論、韓國言語類型論學會、ソウル大學、2016 (2016-01-11)、招待講演
12. 鄭聖汝、韓国語における二種類の属格について、平成 27 年度国際共同研究促進プロジェクト研究会、ライス大学、2016 (2016-02-17)
13. Shoichi Iwasaki, William O'Grady, Yukinori Takubo, Masahiro Yamada et al., Mutual Intelligibility and Mutual Respect: The Effect of Language Devaluation on Self-Esteem and Wellbeing, Workshop and Talk Story Round Tables at ICDLC 5, University of Hawaii at Manoa, 2017 (2017-03-03 - 2017-03-04)
14. 千田俊太郎、ドム語は「パプア諸語的」か: パプア諸語研究史を辿る、言語記述研究會第 74 回例會、2016 (2016-07-17)
15. 金善美、韓国語における連体修飾語の主

題化について、言語の類型的特徴をとらえる対照研究会第 3 回公開発表会、日本学生支援機構大阪日本語教育センター、2016（2016-12-18 – 2016-12-18）

16. 鄭 聖 汝 ・ 柴 谷 方 良 ， Sokkyekilan mwuesinka? ： ‘ Cheyenhwasa ’ loseuy pwunsek（属格とは何か：体言化辞としての分析），言語的多様性 kwa 多文化時代 uy 辞典，129-153，韓国辞典学会・韓国言語類型論学会 2016 年夏季学術大会，漢陽大学校，2016（2016.8.27）
17. 鄭聖汝、韓国語における体言化辞-s の歴史的展開と共時的分布、大阪大学 H28 年度国際共同研究促進プログラム主催シンポジウム: Nominalization Festival 2、大阪大学、2016（2016.6.4）
18. Chung, Sung-Yeo, Korean interrogative sentences: Nominalization and cross-dialectal perspectives, Workshop on Nominalization, UCLA, 2017 (2017.3.17)
19. 外村 孝一郎，津志本 陽，梶田 将司、京都大学における Sakai CLE による学習支援環境の現状と課題、情報処理学会第 21 回 CLE 研究発表会、京都大学吉田キャンパス、京都、2017 (2017 年 3 月 21～22 日)

〔図書〕（計 4 件）

1. 松尾勇・金善美・千田俊太郎、じゃんけんぽん－入門初級韓国語教材－、同学社、2013、総ページ数 87
2. 田窪行則、琉球列島の言語と文化－その記録と保存、くろしお出版、2013、総ページ数 365
3. 田窪行則、ジョン・ホイットマン、平子達也編、琉球諸語と古代日本語、くろしお出版、2016、総ページ数 312
4. 中川奈津子、タイラー・ラウ、田窪行則、琉球諸語 記述文法 II、琉球語記述文法研究会、2016、総ページ数 60

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

1. デジタル博物館「ことばと文化」URL http://kikigengo.jp
2. 2015 年度韓国語済州方言記述に関する京都講演会、京都大学、2015 (2015-11-07 – 2015-11-08)

６．研究組織

(1)研究代表者
千田　俊太郎（TIDA, Syuntaro）
京都大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号: 90464213

(2)研究分担者
田窪　行則（TAKUBO, Yukinori）
京都大学・大学院文学研究科・名誉教授
研究者番号: 10154957

金　善美（KIM, Sunmi）
天理大学・国際学部・准教授
研究者番号: 20411069

梶田　将司（KAJITA, Shoji）
京都大学・学術情報メディアセンター・教授
研究者番号: 30273296

鄭　聖汝（CHUNG, Sung Yeo）
大阪大学・大学院文学研究科・講師
研究者番号: 60362638

元木　環（MOTOKI, Tamaki）
京都大学・学術情報メディアセンター・助教
研究者番号: 8306424

(3)連携研究者

(4)研究協力者
（　　）